


日英共同研究プロジェクト
持続可能な発展につながる
低炭素社会ビジョンの構築


公開国際シンポジウム

日時：2006年6月13日（火）

会場：三田共用会議所（東京）

主催： 環境省・ 英国環境・食糧・農村地域省

 国立環境研究所

共催： 英国大使館

開催主旨

京都議定書が発効された一年後の2006年2月16日、日本国環境省 (MoEJ) と英国環境・食糧・農村地域省 (Defra) は、共同して科学的研究プログラム「低炭素社会の実現に向けた脱温暖化 2050 プロジェクト」を推進することを発表しました。日英それぞれにおいて低炭素社会の実現に向けた研究を実施するとともに、世界各国における同様の研究を集大成する国際ワークショップを2006年6月14日から3日間、東京にて開催します。それに先立ち一般の方々を対象としたシンポジウムを行うことになりました。

IPCCの最新知見によると温暖化影響は、南極氷床の崩壊など、既に予想を超える早さで顕れています。このような状況下、現在、深刻な温暖化影響を回避するための目標値設定に関心が集まっています。例えば、産業革命以前からの気温の上昇を2程度に抑えることを目標とすると世界全体の二酸化炭素の排出量を2050～2100年の間に少なくとも現在の半分以下にする必要性が高いことが明らかにされています。そこで英国では2050年までに60%削減、ドイツで80%削減、フランスで75%削減目標が検討され、日本でも「脱温暖化2050研究プロジェクト」で60～80%削減の道筋を検討しています。

本シンポジウムでは、このような大幅な削減目標が課せられたとき、どうすればそれが実現できるか、世界各国の第一線級の研究者と政策決定者の対話を通して探って行きます。また、今後急速な経済発展が予想される途上国において持続可能な発展と温暖化防止が両立する道筋を検討します。

プログラム

- 12:30 受付開始
- 13:00-13:15 開催の辞
- 13:15-13:40 気候の危機を避けるには - 温暖化の科学と影響の現状 -
英国環境・食糧・農村地域省 室長 David Warrilow
- 13:40-14:05 日本における低炭素社会シナリオの展開
国立環境研究所 主任研究員 藤野純一
- 14:05-14:30 インドにおける持続可能な発展のシナリオ
インド経営工科大学 教授 P. R. Shukla
- 14:30-14:55 英国における低炭素社会シナリオの展開
英国サセックス大学 主席研究員 Jim Watson
- 14:55-15:20 温暖化防止と持続可能な発展に向けた枠組み作り
世界資源研究所 副所長 David Jhirad
- 15:20-15:40 休憩
- 15:40-16:55 パネルディスカッション「どうすれば持続可能な発展に向けた低炭素社会を形作ることができるのか？」

コーディネーター：

英国エネルギー研究センター 研究理事 Jim Skea

パネリスト：

中国能源研究所 部長	Jiang Kejun
欧州委員会環境理事会 政策担当官	Thomas Van Ierland
インド経営工科大学 教授	P. R. Shukla
国立環境研究所 理事	西岡秀三
世界資源研究所 副所長	David Jhirad

- 16:55-17:00 閉会の辞
国立環境研究所 理事長 大塚柳太郎

言語：日本語・英語（同時通訳有）

資料：講演者のプレゼンテーション用資料は後日、脱温暖化 2050 プロジェクトのホームページに掲載されますのでそちらをご覧ください。

脱温暖化 2050 プロジェクトの Web サイト：<http://2050.nies.go.jp/>

連絡先

（独）国立環境研究所 藤野純一（fuji@nies.go.jp）

